

ふうしん 風疹について

はじめに

皆さんは「風疹」という病気をご存じでしょうか。2019年の初め頃に風疹が急増したことが新聞やテレビでも取り上げられていましたので、覚えている方もいると思いますが、風疹がどんな病気かを知っている方は少ないと思われる。

ここでは風疹の簡単な解説と風疹に関する現況についてまとめてみました。

風疹とは

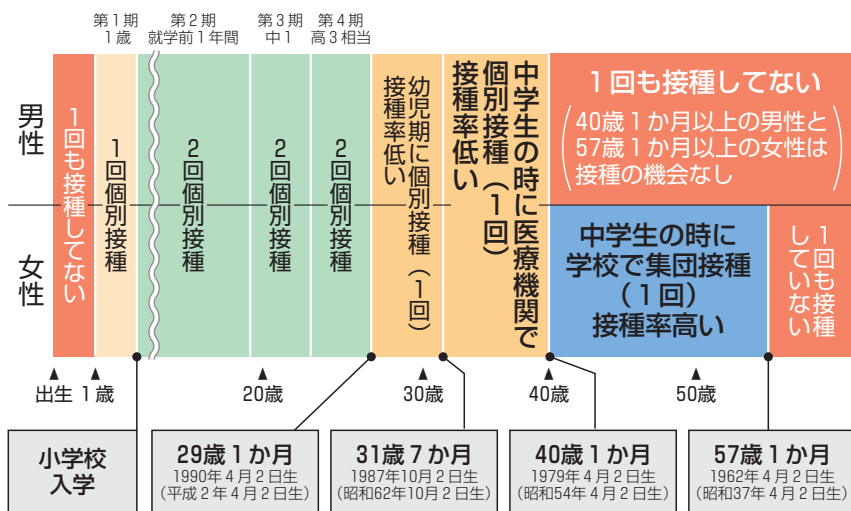
風疹はウイルスによって引き起こされる感染症です。ウイルスという微生物は細菌の50分の1程度の大きさでとても小さく、細胞をもたないため他の細胞に入り込んで生きていきます。ウイルスはヒトの細胞の中に入ると自分のコピーを作らせ、細胞が破裂してたくさんのウイルスが飛び出し、他の細胞に入り込むことでさまざまな症状を引き起こします。風疹の主な症状は発熱、発疹、リンパ節のはれです。まれに関節の痛みを起こすこともあります。合併症としては血小板減少性紫斑病（1/3000例）や脳炎（1/6000例）などですが、最も問題となるのが先天性風疹症候群（CRS）です。

CRSとは

風疹ウイルスが妊娠している女性のお腹にいる赤ちゃんに感染するとさまざまな先天異常を引き起こします。主な症状は、目や耳、心臓の障害です（図1）。

これは風疹発症の抑制ではなくCRSの発症の抑制が目的でした。しかし、これでは風疹の大きな流行やCRSの発症を抑制できないことから、1989年からは1歳から6歳未満の男女に対しての麻疹・風疹混合ワクチンが開始され、その後図3のように年齢層ごとに異なる方法で風疹ワクチンは接種されてきました。2013年以降の風疹患者は男性が77%と多数を占めています。これは30代後半から50代前半の男性がワクチン接種を受けていないためと考えられています。この年齢層の成人を風疹から守るために2018年11月から相模原市の促進事業、2019年4月から国の第5期定期接種事業によるワクチン接種が始まりました。詳しい内容は、相模原市ホームページをご覧ください。

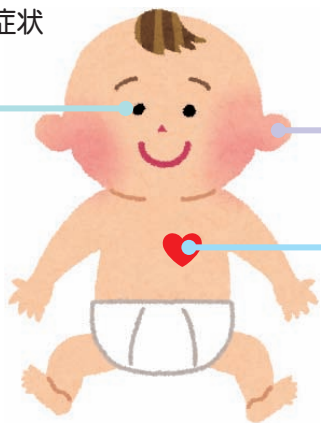
図3 年齢別の風疹ワクチン(または麻疹風疹混合ワクチン)接種状況
風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成31(2019)年5月1日時点)



参考：国立感染症研究所 ホームページ

図1 CRSの主な症状

- 白内障**
黒目が白く濁って見えにくい
- 緑内障**
目の中の圧が高くなり、視力、視野の障害が起こる
- 網膜症**
網膜に対して何らかの障害が生じ、視力、視野の障害が起こる



- 難聴**
耳が聞こえづらい
- 動脈管開存症**
動脈管は、普通は生後すぐに閉じる管がうまく閉じないために心臓や肺に負担をかける
その他の先天性の心臓の病気

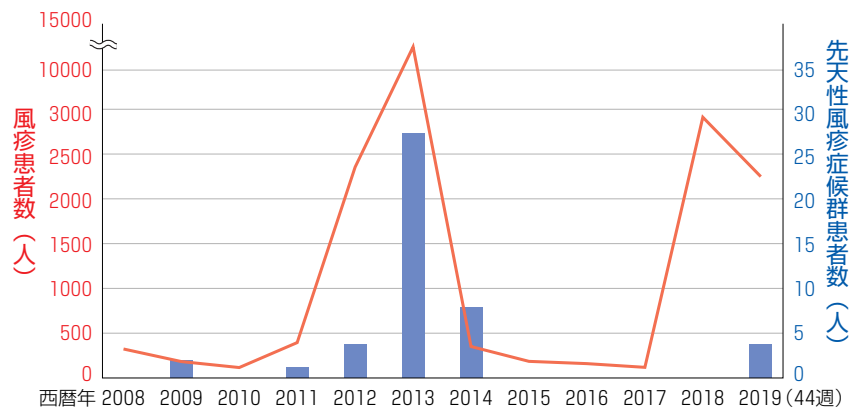
その他 子宮内発育遅延、小頭症

発生頻度は妊娠週数と相関し、妊娠1か月では50%以上、2か月では35%、3か月では18%、4か月では8%とされています。

風疹、CRSの発症頻度(図2)

グラフにはありませんが、ここ20年間では2004年に風疹患者は3.9万人、CRS10人と大流行となりましたがその後は大きな流行はありませんでした。しかし2012-2013年に中規模の流行がみられ、それに伴いCRSも2012-2014年に45例が発症しました。その後は風疹患者が100-300例/年くらいで収まっていましたが、2018年から今年にかけて、成人男性を主に再度増加傾向となっています。CRSも4例発症しています。

図2 ここ10年間の風疹、CRSの届け出患者数



ワクチンの接種状況

最初の風疹ワクチン接種は1977年の女子中学生を対象に始まりました。

おわりに

CRSの発症を防ぐためには風疹そのものを根絶することが必要です。このため接種をしていない方、あるいは防衛タンパク(抗体)が低い方は早めにワクチン接種をお願いします。

(相模原市医師会 小林 信一)

子ども予防接種週間のお知らせ

期間 令和2年3月1日(日)~7日(土)

主催 日本医師会、日本小児科医会、厚生労働省

予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を目的として、上記期間を「子ども予防接種週間」といたしました。

期間中、協力医療機関において、通常の診療時間帯に予防接種を受けにくい人々に対し、予防接種を行います。

※子ども予防接種週間における協力医療機関の詳細情報につきましては相模原市医師会ホームページ (<http://www.sagamihara.kanagawa.med.or.jp/>) をご覧ください。

お問い合わせ先 相模原市医師会事業課 ☎042-756-1700

